

## 令和7年度 矢田中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	52	41	32	14.6	21.5
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	434
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 矢田中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●全国学力・学習状況調査結果

全体の平均正答率を全国平均と比べると、国語は13.3ポイント、数学は16.3ポイント下回った。また、理科では平均IRスコアで69ポイント下回った。また平均無解答率は国語で10.9ポイント、数学で7.9、理科では1.9ポイント上回っており、課題となっている。教科ごとの結果は以下の通りである。

【国語】

平均正答率はそれぞれ「話すこと・聞くこと」、「書くこと」においては15ポイント以上、「読むこと」においては14ポイント程度全国平均より下回っていると。これについて国語の授業だけでなく日常生活の中で新聞を読んだり読書の習慣を身に着けると共に読んだものについての感想や趣旨をまとめ、グループでコミュニケーションを図る習慣を身につける必要がある。また、無解答率の高い問題としても周りとの会話を通し、自分の考えをまとめたり、そのまとめた考えを文章化することがなかなか難しいようである。様々社会現象などに興味を持ち、自分の考えをまとめ発表する の機会をより充実させていく。

【数学】

平均正答率はそれぞれ「数と式」においては20ポイント、「図形」においては10. 9ポイント、「関数」においては16. 8 ポイント、「データの活用」においては15. 7ポイント全国平均より下回っている。特に「数と式」においては20ポイント全国平均と開きがあり、これについては基本的な計算の手順の確認や文字式を使った計算や文字の意味についてもしっかりと再確認する必要がある。さらに、基本的な数学の考え方を文字などを使って一般化して説明する力を身に着けることも大切である。「図形」や「関数」の領域においても基礎的な内容の意味を理解して練習問題等に取り組み内容の定着を図る必要がある。その上でいろいろな現象を数学的にとらえる応用問題にも取り組むことが大切である。他の3領域に比べて「データの活用」の領域については基本的な考え方は定着してきて、より練習にあげれば抽象的な問題にも取り組んでいけるようになると思われる。

【理科】

どの領域の問題も平均正答率に比べて下回っている。基礎基本の知識をしっかりと身につけるとともに色々な自然現象を理科的な見方をで考える工夫を行う。

【今後に向けて】

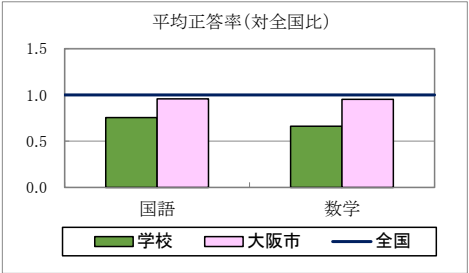
基礎的、基本的な計算力や知識の定着を図るとともに、予習や復習の家庭学習を習慣化する必要がある。また、問題の内容や量によっては考えることをあきらめてしまう傾向が強いので粘りよく考える力をつける必要がある。そのためにもスモールステップを活用し、簡単な内容から少しずつ難易度を上げて反復練習をするとともに学習内容に興味・関心を持たせるような課題の精選を行い、自ら学ぶ意欲を育てていきたい。さらに、グループ学習などを通し、他の人の意見を聞き、それを参考にして自分の意見を考え、まとめ、発表する力を身に付けていきたい。

令和7年度 矢田中学校中学校のあゆみ  
 ―結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について―

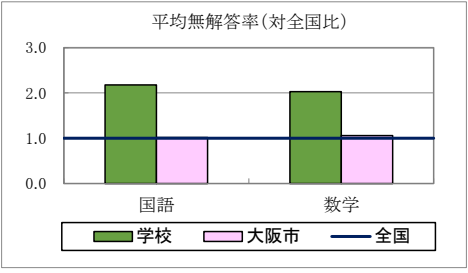
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	41	32
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

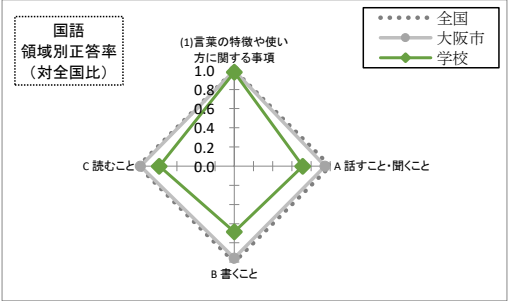
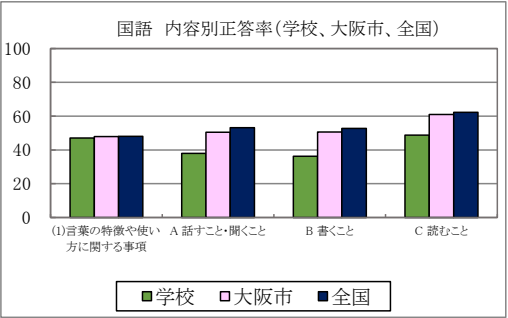


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	14.6	21.5
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



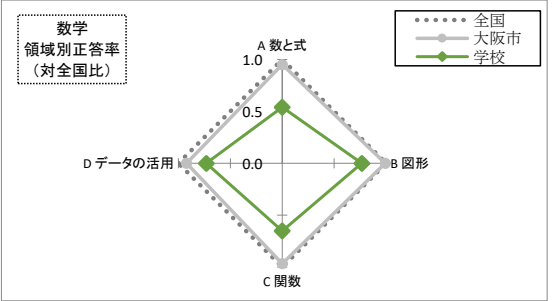
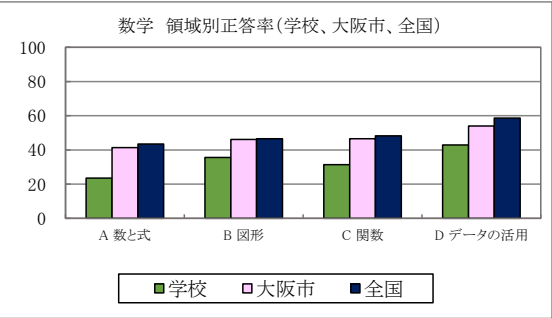
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	47.1	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	38.0	50.4	53.2
B 書くこと	5	36.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	48.7	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	23.5	41.4	43.5
B 図形	4	35.6	46.1	46.5
C 関数	3	31.4	46.6	48.2
D データの活用	3	42.9	54.0	58.6

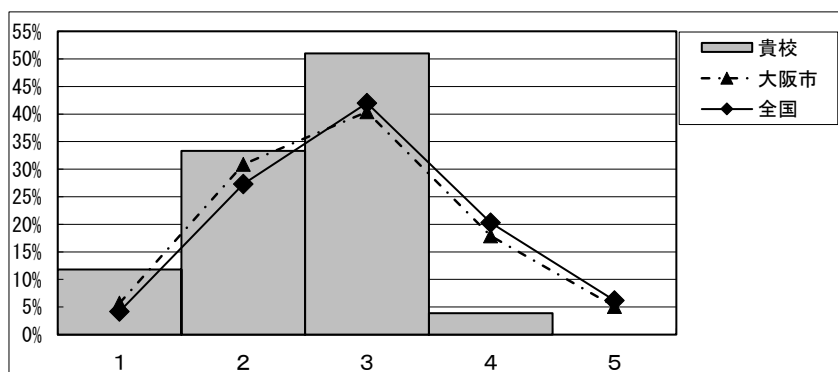
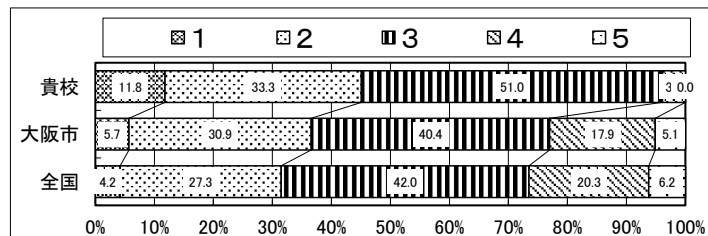


令和7年度 矢田中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	434
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 矢田中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

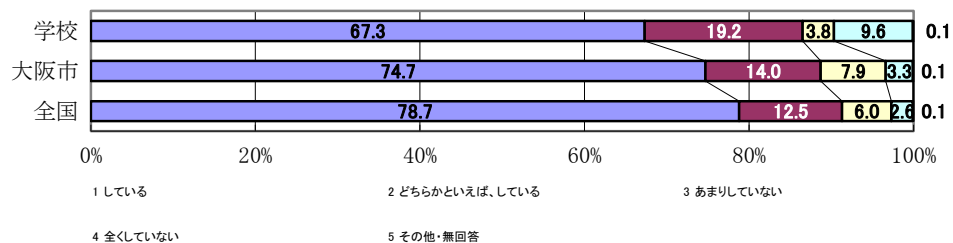
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

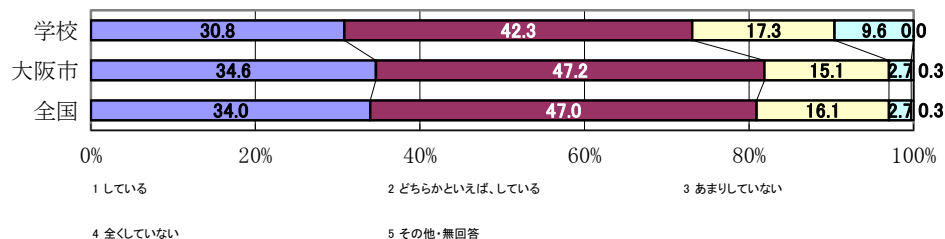
1

朝食を毎日食べていますか



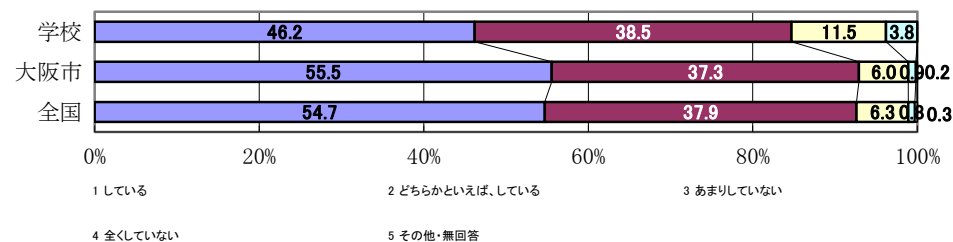
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



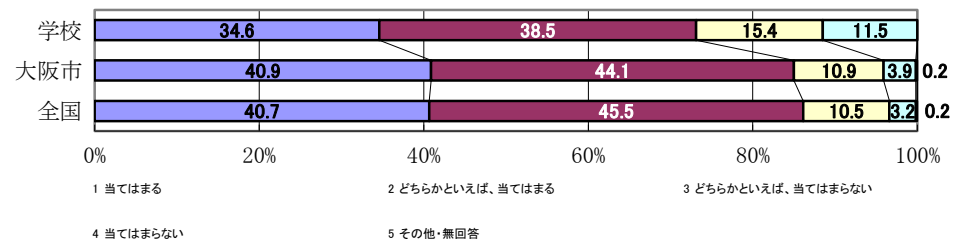
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



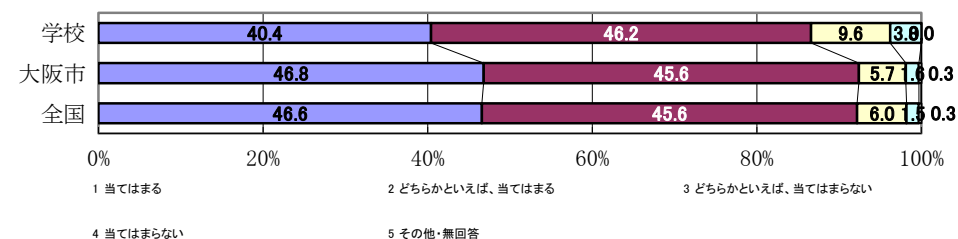
5

自分には、よいところがあると思いますか



6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



# 令和7年度 矢田中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

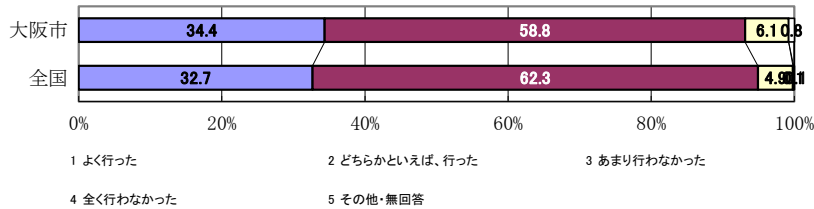
質問番号

質問事項

31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

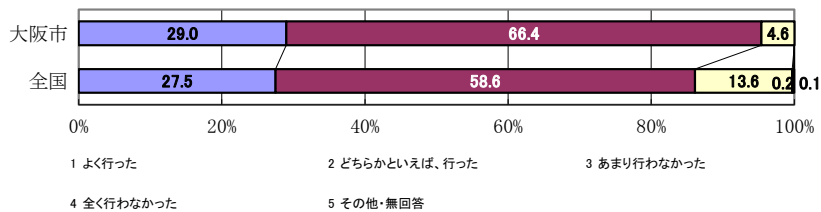
学校「」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

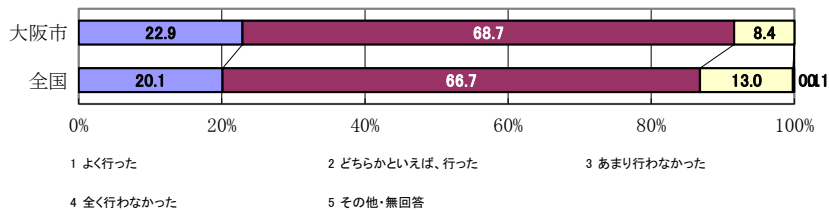
学校「」を選択



33

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

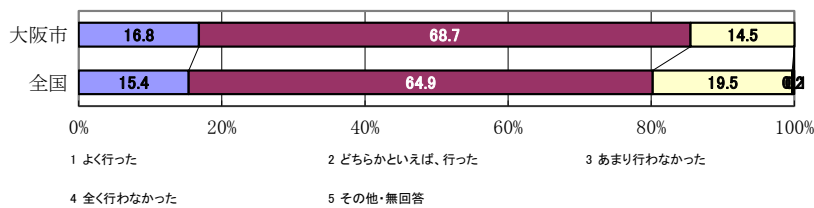
学校「」を選択



34

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

学校「」を選択



35

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起きている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか

学校「」を選択

